国立国会図書館　タイトル『曽我物語 12巻』 請求記号 857-93

ガラス使用

曽我物語巻十目録

みなかはまへてまいらせられ
こしくはなる

857-93

曽我物語巻第十目録

一 みな御所まへてめしいでられたことはなる
二 いねだうがす
三 みな御がさらはなくなる
四 いの乃ぬ御がなすがさまつしす
五 おふはうだうこゝ御そうがへかへりしす
六 おふじくがれりのどもとんせいのす
七 そがれてづゐぜんの乃す
八 ぜんじゆうしがぶがいの乃す
九 きやう乃小ぬ御がぶもとうす
十 みうしの乃ちゝがぶ御をれす

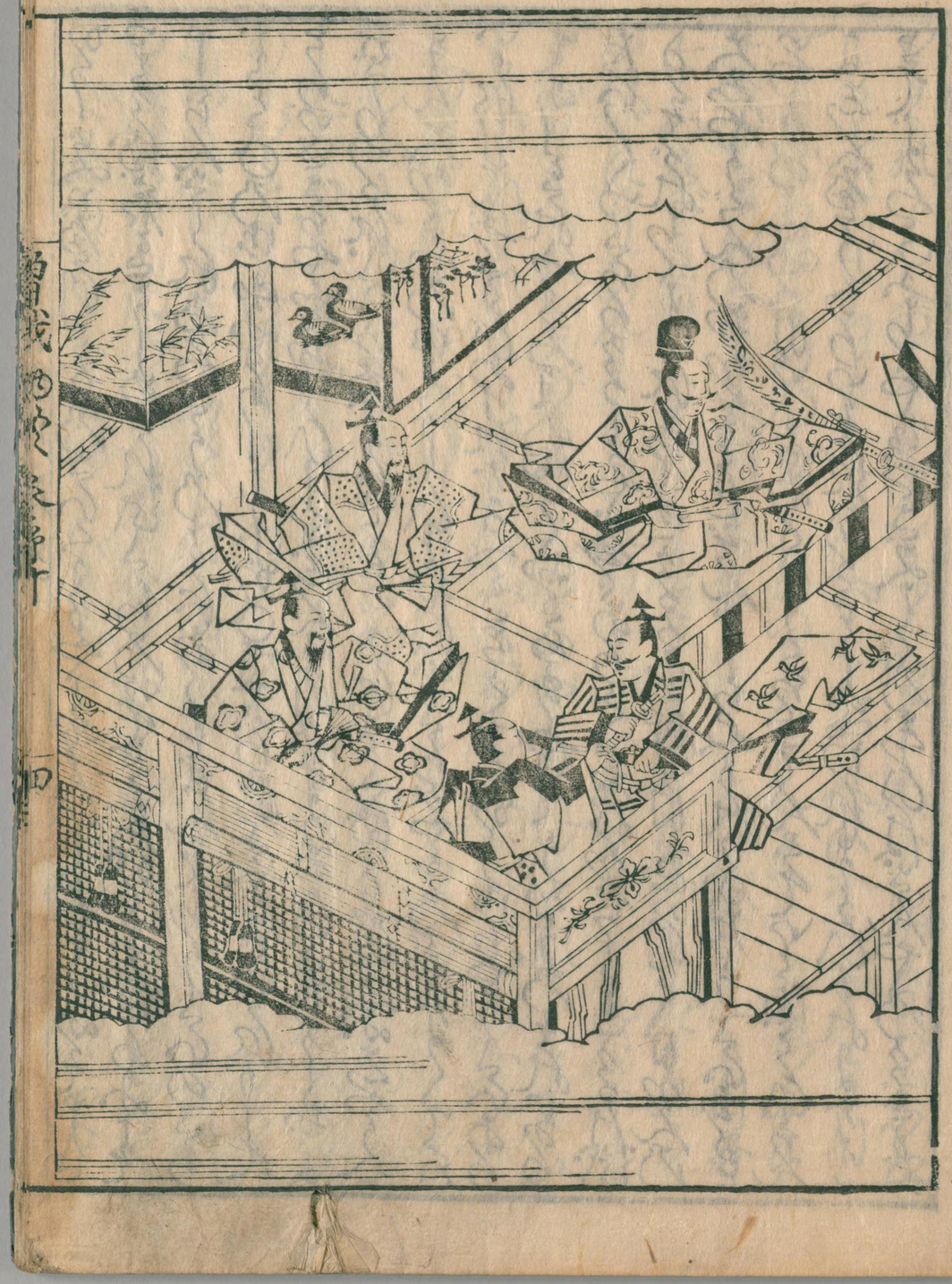
国立国会図書館 タイトル『曽我物語 12巻』 請求記号 857-93
ガラス使用

曽我物語巻第十

一

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『曽我物語 12巻』 請求記号 857-93
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『曽我物語 12巻』 請求記号 857-93
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『曽我物語 12巻』 請求記号 857-93
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『曽我物語 12巻』 請求記号 857-93　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『曽我物語 12巻』 請求記号 857-93　　ガラス使用

んとおもせられけまゝにおりくにふれてぞ○くらゝぞやまさしまさ
やくどうづくらの乃こちぶしちどりの乃ひこれなしば酒とにくは
やゝさしばおりけんあるべしとておりこの四郎をめされを
まばくらゝぞやまさしまやくどうづくらの乃おまごちぶしちど
つまれひこくまにくびをつくこそ[illegible]ゆんでの
かくをあひちかくぶびをかんせくぞとゆりかゝ郎はい酒で
おりしるなくかうぞんしてありかゝがあれがくびを一めかんくさ
をたまし[illegible]もうしなひなぶこにむせぶあらさ酒はゆうらか
あさがほの日かげに志かるごとくまてむざんとりてもあまるを
ゆりやくありてゆかゝ酒はぐしこ志くをさきだちかふ物かな
おなしきやうどのといひながしこゝうせうこりおやの乃かたれに
んざしふくまたく一志よとしそちぎり志にをけなりはゆふ
酒やたんにうこれかふに附ひ○いんなしをい酒でなかゝふ
まの乃ひ○んさよされかこれなれながしへまてこぞき志くの乃ふり
てまちかへやうそおひつきこそまつのぞげれ川をばかしを

とりくまうくらの志へまうとうぐう酒はもゝのとといひをもそ
ぎとなるぶこにむせびかのそぞまくかをもおさへこそれたごそ
小みにいまりしめこれかれば[illegible]へかこぶきかてへうつぶきなを
志をこがるくなるぶこをばひざにかゝをもとせつこぶきあくとな
きあくらぶこぶこけ山をもしてこれそぞとぞぬら
されかゝ酒がなとゝろに十郎がこちを[illegible]さふしひまとりまこ
しよれぞあしきぞと○あひかゝ酒中にもゆふ酒おりこそ
られたごがきをやぶのぶけこらし志んかの乃あしやこはさ○こ
をくこのぞく○かゝ酒はそがれもれどもいかこれこつくかうしやうは
志これただちこそまろきこちをもちこれこれがどれ志せざ
ちをもちくぶ君乃ゆまへまそがゝ酒大ぐん志かゝ酒つ[illegible]さしまといひ
かれば附ひ○きてまなこをかんぐしあしや郎をもてことにあら
んぐぶとこれはいづくをこそそれを志せざちこはやぞたぐい酒は
まへまそアてむよう乃ちまなれたおとこれまろきこちもちこ
なはもちなるあひぐ○かなのぞれしそやこれよくきけぶい

国立国会図書館　タイトル『曽我物語 12巻』 請求記号 857-93

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『曽我物語 12巻』 請求記号 857-93

ガラス使用

こゝろを掛しまゝにあらはれぬるゝ。ぴまをしやうあつかれなれば人を
乃ちかれとやおしこゝろんぶじ乃くそこをとろかしくこゝどまぐ
そいじ人を浴さてあつぐさにあらざれどもこゝろ乃ろきをし
らぬ山なりにおがつかれきはつし乃なりなくくじ事しきま
酒乃うちとひきふうさしくはいそげどもゆきをやしまぬ山
みち乃ぎ忍もさごうにみこまうぐにくに人乃つかひとおがしく
てぶこゝりちうかれおとこゝろいそぎきさうだう三郎
とひうへくごよひいそれやうこゝにはなれしとれありそれぐいまろ
乃うどれみこゝひつるとうひそれぐされぐこそしよ志り給ひど
やそがれ十郎五郎といふ人ぎやうぐかして一ぞく乃ぐどうさへ
もん乃ぜうどれとおや乃うこれとそうちまひぬおまつさへ浴
志よ乃うちまぞきりいりく日がん乃きづしひうち乃きしき
ぬはさづしいぐ又おひ志にん二三百人りしそこらんぎれたおに
乃十郎はやくんにうちぶしまひぬおとくの五郎どれをお
うつきにおしまびいけどしまひきぶ人乃ふうまひぐんま

さぶん乃あれこうしやかれおびたくしきすどそひはぐりつ
まこう猪乃すを大いそれとうけぜん乃いりうしぎせ門乃うを
げうけぜんよりぶいそへつけきせまふ浴つかひなりとそだしつと
とそりうり二人乃もれどもきてぶそんじまふ蛍しにおもと
ちひ一ごれ大すなれば心もとなくおもひさすけつと
しになれすなくくかんいをとけまひぬうまとかげ
乃なれまつこびりそぶぐ乃うこをめんくにはなりうり

六 おかしくうれもれどもぶうんせいのす
されどれものともいけづ乃ぶにもうつぐどかうやさんにうつ乃
がりどもにおもしぐうまきりてぎとこぞめ乃しろもの乃いろにかを
なし一ぎとらにぶ人を乃ぐせがぶいをとふとひうぞありがこさ

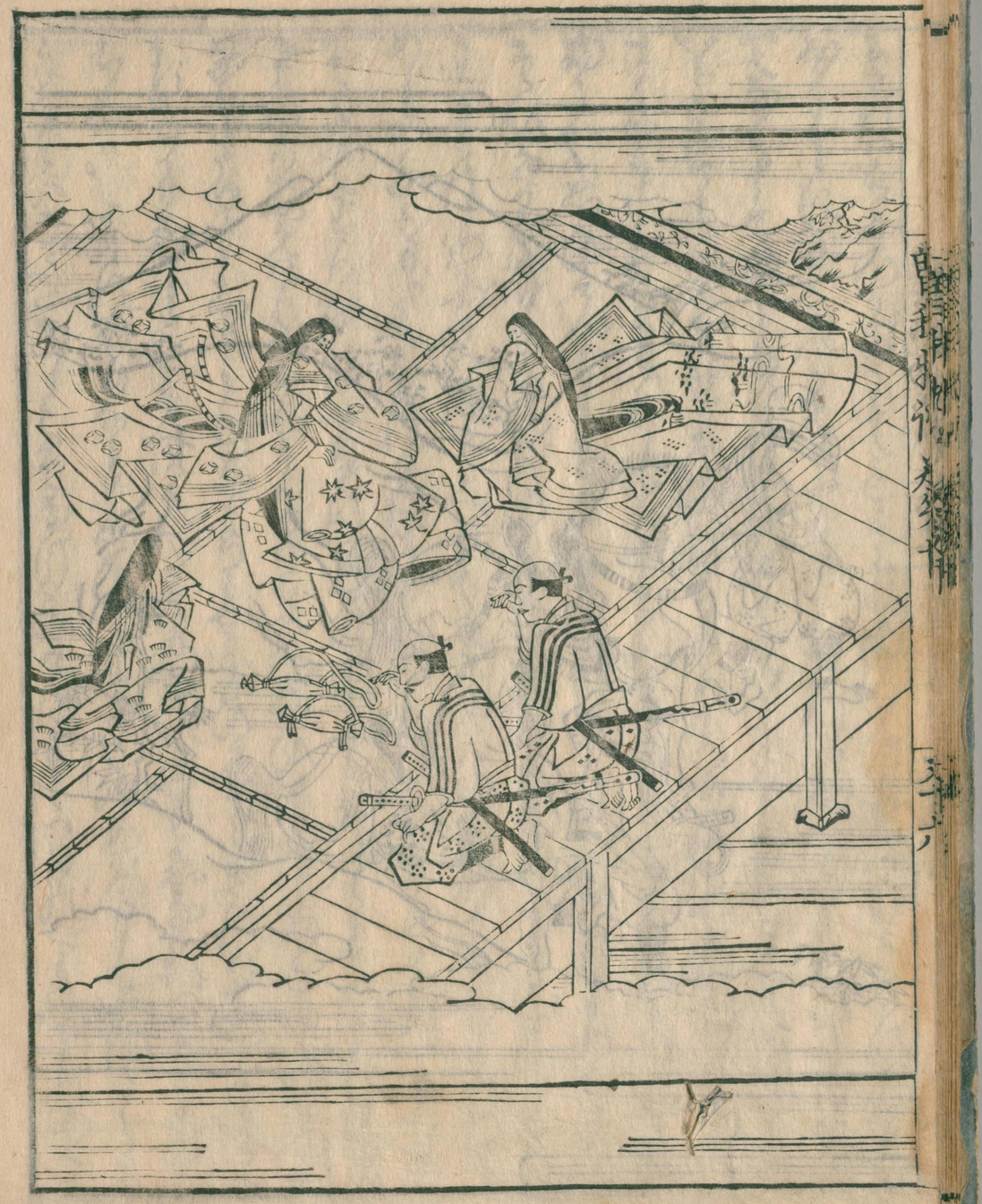
七 そがはく乃浴はぜんのす
さそともそくは子どもの乃へしられてそぐをとりあげてなの
くうなれとしあそくそのまくたるまつしぎこいりまひに
うり女をうしうちやうくうにぶやくしぐとりなどうちにそく

ざやうぶやうしゐれば、ぞつかれめぐりりちあげくるぞめくの
すぶつことひしきてしゐんとしれなめもこれんもてこゝろなし
いりじもさしれみとまうぶらしめしやまこゝろをとどうりいひそじ
後ふひきあそぶうちつゝぬやくありさいされしてうそこと
ゝ後ハ後ことれがんづれもかどもうなさまれかれしどれこそそ
としひくなかさしまぞの所ことしひてあり[illegible]あ所
ゝ二人つまくさくらしひをう掃をしらどしてがつせしひかん
くやしけよ御所もかさらしひてやどれさびつよくいひゝそやい
くかどなれよ後ハふぬくうしてどしどろそれがなしさしな
ともんづよくゆうさどりせばあもみぎらまし、ひさしくそれぞ
にかづらしくもたのりしくも掃かしまれをぜめくこ百ことも
うちうちぐなどり掃さしまだつりしかりつゝ掃もかけどいつの
よゆはあひ　んそこ忘も掃しまだとなれのくりぶれなしぶ
の掃しづのかいてうまぞなかしぞとなかさぬいなりうり二の
やの女ばうをもとめしてしたへとあつまりてあれか

あしびすあのあしくばしひの所あまりまもくハ十郎があさ
りけりしつふさつきのあしれもとしまれ掃しだりうまく
ぶりし後やの所こゝろしいかさゝろつぞの所ともびとみまぞ二
さいうのかうかよひぞんかうあ御うふまろやくふまそんかう
さふよぜくもんとせがさくうもうぶわがこをおりやこも掃りぬ
くちどさびみうふなかしぞこもそぐ間しどびとしいくふハ古今
まんかうとましめしてがんじいせまれがこりまいうまぞかど
の[illegible]とつゝ掃さくこまどこもいゆ後ハのちの所なぐさびしハ
ざんかいこんと見うづきとみうふ掃りひぞまさりうぶつこ
とハ二のこやの女がうぞなくくまこつゝ孫うぶさくうは
けくもふハこ後こも掃がしば人の所なくひがこやかしけふ
まいりてはいのちをなぐくぶくさいもひとそいれうれこれ
ともいさぐおけられしにうせんこのこまりれがびさびのがれこ
のこと後ぬれそひくつまじとこぞやそれまつけこもも
こうとどしじつ夜ううしてぞはぶりしものこやしけよ

国立国会図書館　タイトル『曽我物語 12巻』 請求記号 857-93
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『曽我物語 12巻』 請求記号 857-93　　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『曽我物語 12巻』 請求記号 857-93

ガラス使用

[illegible]

みざさぐるとしらがのちのよまでもあそこしつゝだざいせしを
じとこれりしくそおぼしを間

八

ぜんじがうしがぶがの乃す
さてもぜんじ乃おとくにぜんじうとて十八まするがうし
人ありこうげの三郎がいはれらふひまれるるなりぞおし
しひれあまりにまとそんをせしを おぢいとう乃九郎やしなひ
てぶらごれとにぐぐしといふでしにのがせいとう乃ぜんじと
そいひける九郎 面ひけまいりてのちぶさしにふまりみな
りこれよしれぐぶるぐがうして おりつしむさしあるりる
どうりこもさこしめしよしのぶよおぼせつけくめされられぞ
ちてなくいぶれるらうぞうとナんとぐしぶす 奴びんなり
しぶぐいなりぶんさおなじさやうぐいとやしなぐちれ
りたにんにやしなりれぶりも志のきれ力なりこれとて
ふつう乃ぐぎなりせばかれらまぞ此ぐぶひあるましにとおぶ
れよしにこんなとぶんてんにあげしゆんぞうしぐうしのぶの頃

ひはかんだうにきこりて、かやうの志ごいをいふぜんじかうし
きこてぶつやゆしやとりの事がいらぶの志をもそくだれおやふ
法くすはゆめくあるまじれすなりかやうの志ごいをはれみ
なりとさごされかるとや、おなじ志をいのちかやうだいたん
一門まいらふうらだにせずいかで人めとうまつしかしまし内
さしてうくかいをれどもかなかりけれぶ門ぜんにまいりくぶさや
うひらさしまんとまれどもとじとみこざりそれがまれお
さあだのぎとさしうくとどしまかひびやうどう大志ぜうう
めうぞん孫がつくはかつけどくだのあらりきれよりせつなれ
まうしうとせうめつしおんらくせうはじかへとりまへきせい
してぞんとぬきゆんでれらきにつきこくめてへひきまいさん
ともとるとしろをどうだのくもやくみつけくどれはいかにとり
つきおさへれはおきさへ人をにかしらんよりきこしきだがのと
して尺せ戸さん一門はどうだうこちの御がしめさうしとろ
もありむなしくか内くらへとしまんす。ちちうだうちうの

なくなりなりしまへといろりそれども大ぜいなれがちかう
おしかずそうへいよくまいりもそにそり内ことにんなしぞ
人おまこまそもてしうきざとだがいなかばにぞ志ろるむ
孫んといふもおまりあり此つかひいてはじやうにだうまんしく
せめそれがちからおしかずどだやういかどしがてくしてまこされ
まそりらちおしかりし志ごいなり此つかひうけとりこしに乃
せしくか内くらへしそのがりそれさきこうしめされくぶまへ
めされそれがかんしくまいりそり君にらんぜしまくけそうを
かりげがなかとぶこつ○ありそれがぜんじだうぜんごも志ゆさり
そうがさきれおかせをきてぶやうの子をおしうどかしおさ
おがらんとんざしそれどもかなかりくかしらをかちあげさん作
いとうがらあにはまだぶとり。さそおれどもがかくきこうちをくとは
志らせざりか内をそれながら志やうぐん乃おかせともだ年
らげ一つくてやう乃おにたがおやの乃てきこうちぶとそ志らせ
りんまたとひ志のけけしそぶとをぶういせねちくしやうやくべ

まひしろは、ほまれしそうのさふらひどもにぞ、そでをぬらさぬは
なかりけり

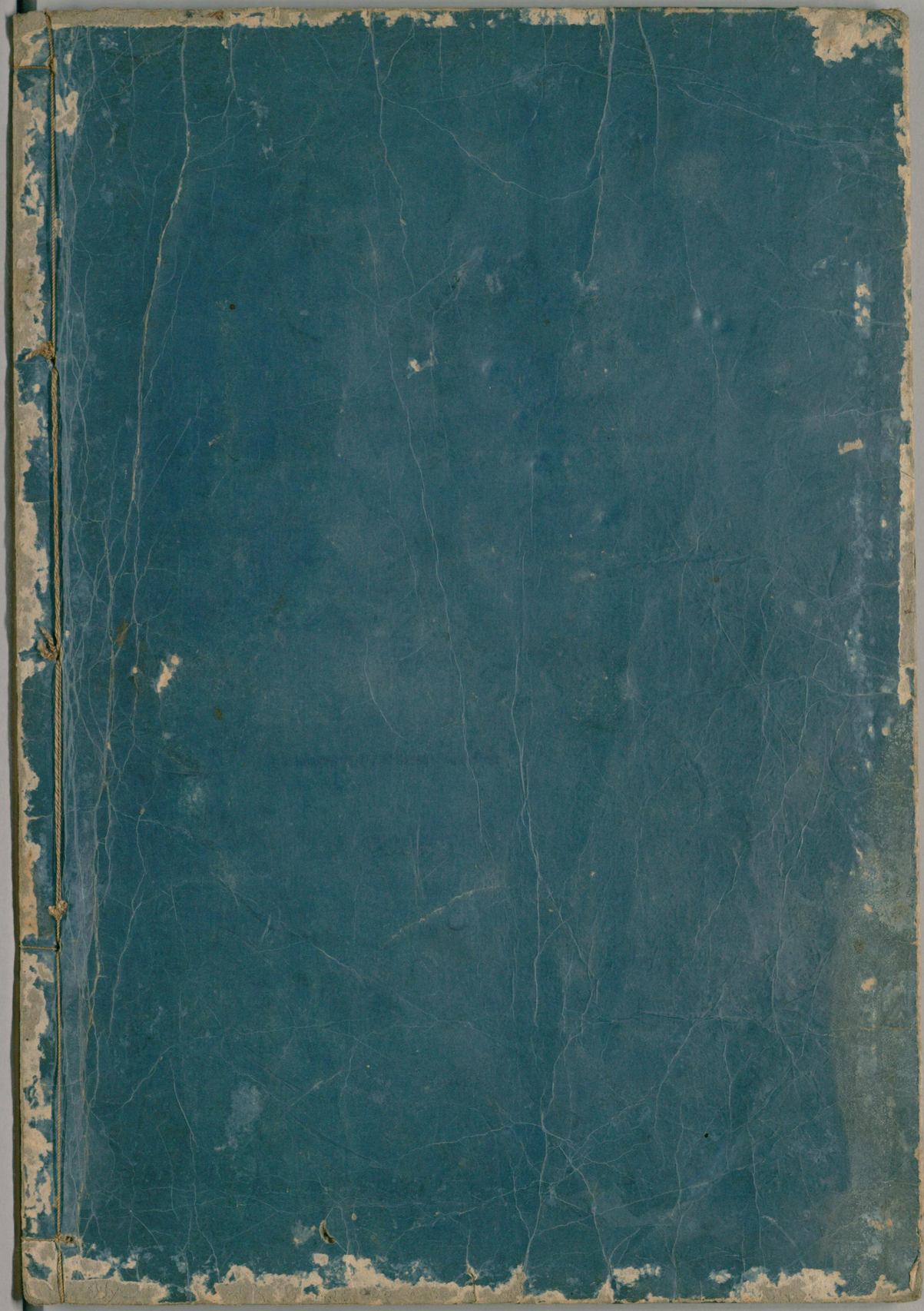
九

京の小次郎がしわざにより
これはさてをおほせられ、そうはせずらし上下の人のあはれは京の小次
郎も同じき八月よりやまひつきて、いくほどなくうせにけり
ひおゆうの三郎がむほんおこしてはやくめしとられ
のちに又そのうのこともそかうのそがにたりし又日をへて
てこれらおなじく八月にこのやうにひとしくよしあしけるぞ
らばかりよろしきことぞやあはれなる

十

みうらのよ一がしまつけのす
みうらのよしもくをせられしんぶくがきまかしてほうんがう
とかふむりしたつけしそうら人てござとおんてのみちとぞ
ただしくきこえさするとや

曽我物語巻第十終



国立国会図書館　タイトル『曽我物語 12巻』 請求記号 857-93

ガラス使用